

令和3年度静岡市協働パイロット事業報告書

あそびのひろば事務局 鈴木綾子

1、事業の内容

小中学生を対象に居場所事業を運営する個人及び団体の情報を収集し、静岡市で運営している同事業と統合データ化する事で、市内の居場所事業者に関する運営状況の現状を明らかにするとともに、千代田小学校で開催されている居場所「くすの木ルーム」との協働により、本市における協働に基づいた居場所事業のロールモデル構築を目指す。

※「居場所事業」とは、子ども達を対象に、自由に過ごせる場、学習の支援をする場、又は遊び場等の、子ども達自身の目的に沿った居場所を提供する事業を目指す。

(1) 千代田小学校との協働による子ども達の見守り事業

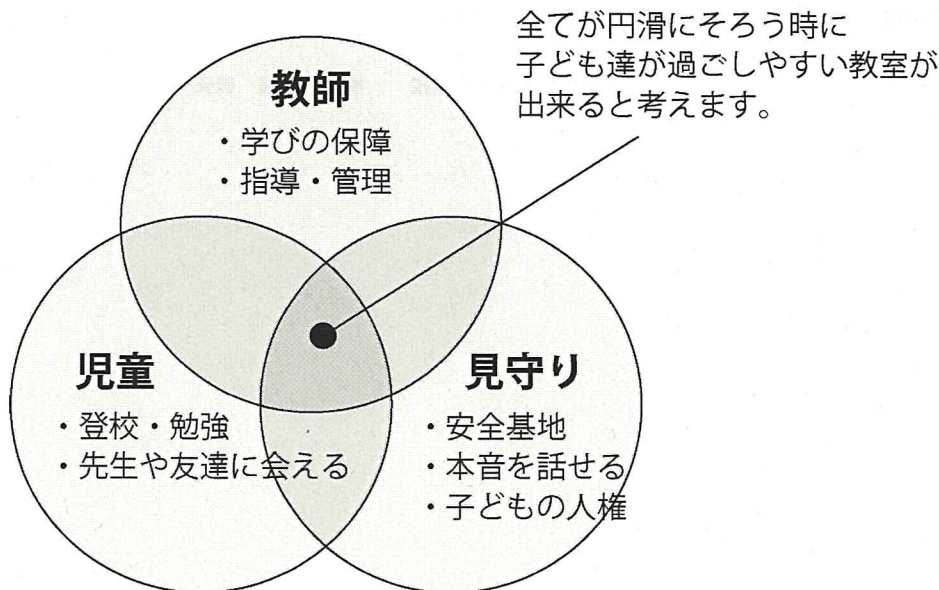
実施回数: 全47回 (週2回実施)

a、事業の成果

事業を通して、教室に行くことができない子ども達にとって、見守りボランティアは、子ども達と同じ目線に立ち、気持ちに寄り添い続ける事で、子どもの安全基地となり、本音を話せる人としての役割を果たしている事が分かりました。

子ども達からの、本音や意見を受け止め、それを「くすの木ルーム」担任教師に伝える事で、常に変化に対応し、能動的に教室の運営を考える事が出来ています。

教師、児童、見守りボランティアの3つのバランスが取れている時に、教室内の空気が保たれ過ごしやすい雰囲気作りが出来る事も分かりました。



b、見守りボランティアが入る事の意味

- ・お忙しい先生方に代わり、一日を通じて子ども達の安全面の配慮、動向や心の動きを見続ける事が出来る。
- ・子ども達が必要としている時に密に関われる事から、子ども達との信頼関係を築く事が出来る。
- ・子ども達の本音を聞き、担任の先生方にフィードバックする事が出来る。

c、まとめ

「くすの木ルーム」が子ども達が過ごしやすい場所になるまでには、とても時間が掛かる事だと分かりました。教師と見守りボランティアが同じ場所で子ども達に向き合い切磋琢磨した結果、生み出された成果だと思っています。

この成果は学校だけでは出来ない事であり、また民間の居場所事業者だけでも出来ない事であり、学校と民間が連携した新しい形だと思えます。更には、子ども達の目線に立ち、動向を見続けられる洞察力が必要な為、誰でも出来る業務ではない事も分かりました。

「居てくれるだけで良いんだよ」という気持ちは、保護者の思いである事も多く、そこに立ち返り、どんな声掛けや提案をするべきかを考える事は大切だと思いました。

この事業は、静岡市の不登校の子どもを一人でも減らせる事業として成果を出せると思われれます。千代田小学校の先生方にも意見書を頂きましたので、事業を発展的に考えていきたいと考えています。

子供の「居場所づくり」

「十人十色」という言葉にあるように、子供が10人いれば、10の個性があります。そして、すべての子供たちがそれぞれの学びの充実を感じながら過ごすことのできる「居場所づくり」が、これからの学校に求められています。

本校の「くすの木ルーム」の子供たちが、思い思いの学びを進めるためには、子供たちを温かく見守る大人の支えが必要です。そして、学校もまた、学校と一緒に子供たちを見守る大人の助けを必要としています。温かく子供たちを見守る大人の輪が広がることで、すべての子供の「居場所づくり」が進むことを期待しています。

静岡市立千代田小学校 校長 渡邊 俊夫

令和3年度静岡市協働パイロット事業についての意見書

今回本事業で「くすの木ルーム(登校支援教室)の支援」に協力をいただいた。

静岡県は、全国でも登校渋りの児童生徒が最も多い県となっている。(令和2年)本校においても、登校渋りの児童が10人以上見られる。また今後登校渋りが懸念される児童もそれ以上に見られる。

このような状況のもと、本校では(学校と家庭の中間となり)登校意欲を高める場として、昨年度より「くすの木ルーム」を開設した。しかし、教員数が限られていることから、「くすの木ルーム」に職員を常駐させることは困難であった。また、くすの木ルームに来る子どもたちの多くは、不安を抱え、様々な形での支援が必要な状態であった。

そこで本年度より、支援員(見守り)として、鈴木様に本事業を通してご協力いただくこととなった。鈴木様は、学区内で「あそびの広場」を主宰していることもあり、「くすの木ルーム」の子どもたちの話によく耳を傾けてくれるため、信頼もある。接している子どもたちも笑顔が増え、学校は、自分たちを理解してくれる場という思いが高まっている。

静岡市協働パイロット事業として、今回、本事業の支援いただいたことは、「くすの木ルーム」の目的達成のために多大な貢献となっている。

令和4年3月10日

静岡市立千代田小学校

生徒指導主任(「くすの木ルーム」担当)

松永 徹

あそびのひろばの鈴木様、原様、「くすの木ルーム」の見守りをしてくださり、ありがとうございました。

「くすの木ルーム」に来る児童は、感受性豊かなお子さんが多いと感じています。少しの違いに戸惑ったり、周りの人から言われた言葉に傷ついてしまったりしやすいのではないかと思います。そういった子どもたちに、鈴木様や原様が関わってくださったことで、場が和み、より温かい居場所になったのではないかと思います。ただ、学校で行われた事業でしたので、見守りに徹していただくことになり、仕方のないことだと思いますが、できることが限られてしまったと思います。

特別支援コーディネーター 白鳥恭子

くすの木ルーム アンケート集計結果

1 くすの木ルームに成績をつけるとどれですか？										
	児童					保護者				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数	0	1	4	2	1	0	0	2	7	2
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・気が合う人がたくさんいて楽しいから ・男女で別れることがある。 ・教室に行けない子が気軽に来られるから ・学校よりは行きやすいから ・楽しいけど子ども心が十分に発揮できない。先生たちが子どもたちをわかっていないから対応できていない。先生たちが子どもたちの個性を把握できていない。 ・リモートとか勉強とか7割の授業ができたりしたから。 ・楽しいから ・友達と会えていい。 					<ul style="list-style-type: none"> ・場所がありとても助かりました。よりよい場に育っていてほしいと思います。 ・子どもたちが学校に抵抗なく通えるようになってきている。学校で友達と関わったり授業に出られたりできるようになっている。 ・学校に勉強道具をもって勉強し、わからない所は教えてもらっているし、鬼ごっこなどで体力づくりもできているから。 ・毎日の先生方のご対応に感謝しかありません。これから少しずつ親子とともに歩んでいきたいです。 ・くすの木ルームがあることはとても感謝しています。ここがなければ学校へ来ることができていなかったと思います。ただ、個人ごとの対応が、できていないことも事実、結局1年以上たっても変化なく今後の見通しが持てない苦しさがあるため3を選択しました。 ・いつも温かいまなざしで子どもを成長させてくださることに感謝しています。このくすの木ルームがあったから学校に通うことができています。 ・子どもの居場所を作ってくれて感謝しています。 ・くすの木ルームがあることはとても助かっているの で ・落ち着いて生活できているから。学校嫌いにならずにいられるから 				
2	これからどんなことができればいいと思いますか。					2 今後のくすの木ルームをよりよくするため…				
	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ仲良くなれない子がいるから仲良くなれたらと思う。 ・特になし ・なし ・子どもたちは良い人ばかりだからこそ、ちゃんと子どもたち一人一人に声をかけて同じ目標で対応できたらいいと思う。サポート 					<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに、どんなかかわりを期待するか。 ・子どもと一緒に楽しいことをたくさんしてほしい。 ・心の安全基地（親御さんの代わり）話したくなかった時に愚痴や本音が言える。一緒に笑ったり話をしてく 				

<p>絵を描いていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のクラスの廊下に行きたい。 ・みんなと仲良くなりたい。 ・友達を増やす。 	<p>れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ガラスの心」と本人は言い、傷つきやすい子（HSC）なので、励ます感じで、やる気、目標をもって、途中で困らないよう頑張ろう的な声かけで指導（学習）していただけたらありがたいです。 ・鬼ごっこで体力づくり、有難くうれしかったです。（持久走もやれていないから、どうやって中学へ行く体力づくりしようか考えていたので） ・6年生が卒業後、また雰囲気が変わると思います。その時に残った子たちが籍かに過ごせるよう見守りをお願いしたいと思います。 ・「遊び」重視ではないかかわり方。今はなんとなくボランティア=遊ぶのイメージが強いと思います。今後、くすの木で園工や書写等のフォローをしてもらえるとよいかと思ます。・子どものいいところを見つけはじめ自信をつけさせてほしい。ネガティブな記憶、体験のある子どもは過去の苦しみにとらわれています。そのため自分から挑戦する意欲やチャレンジ精神、人の助言を受け入れる素直さが自発的に育ちにくい状況にあります。現でも教師でもない利害関係のないボランティアの方のひとつがとても勇気づけられると思ます。 ・いろいろな体験ができたらと思ます。 ・子どもたちとかかわりをもって来ていて助かっています。・家では教えられないことを教えてもらいとても感謝しています。
	<p style="text-align: center;">改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強タイムの時に、どうしても勉強したくない子もいるので、その子たちがいられる場所をしっかりと確保してほしい。 ・1、2時間目、国語・算数の学習をしてくださりありがたいです。社会と理科、英語も困らないよう（中学で）授業したいです。もしくは、社会、理科のまよめの問題集もやるといったら持たせるので、わからないときは教えていただけたら有難いです。 ・配付物のやりとり、各クラスごとお手数かと思ます。手紙の替にくすの木のボックスを作るのはいかがでしょうか？（子どもが取りに行けるかと思ます。） ・勉強する部屋とそうでない部屋のめりはりが弱い。一流されてしまう。→集中できない。とにかく本人=先生=級の連携ができていない。→直話回数が少ない。先生がいないことが多々ある。一言にだけかい、安心感がほしい。お互いにコミュニケーション不足など思う。一人一人に対応してほしい。寄り添って

ほしい。自分の子どもが同じ立場だったらと悪いながら考えてほしい。

- ・学校へ通常学級へ通えなくなった原本への対応もよろしくお願いします。本来の姿を取り戻し自分の人生を歩む道筋をたてて卒業したくお願いします。
- ・今は子供の思いを大切にしています。学校に行きたい日もあれば家にいたい日もあります。学校に行けている日がすごいのではなく毎日が自分の意見で動けていけて笑っていてくれることがよいと思います。学校が楽しい場所で安心できる場所であってほしいです。
- ・今の現状で助かっているのですが、できたら専門の知識をもった先生に様々なあった対応をしてくださると有難いです。なかなか難しいと思いますが…他の子ども、先生方、ボランティアの方など、とても良い方たちに恵まれて安心して学校に行けているのでとても有難いです。改善点ではないですが週一、月一でもいいので学校での様子、家での様子など手紙などで話ができたらいいのかなと思います。

d、千代田小学校最終報告会の内容

令和4年3月10日(木)に千代田小学校内小会議室にて、事業の最終報告会を行いました。

報告会で出ましたご意見などをご報告させていただきます。

参加者:千代田小学校3名、静岡市市民自治推進課1名、あそびのひろば事務局2名

事業に関するご意見、ご感想

・見守りボランティアが居れば「くすの木ルーム」に居る事が出来る。令和4年度も来てほしいという子ども達、親御さん達からの要望がある。

・生徒の親御さんから「とても助かっている」という意見を頂き、先生達だけでは出来ない、とてもありがたいと感じている。

・先生達だけでは汲み取れない、子ども達の気持ちの部分をフォローしてもらっている。担任教師になっているがずっと教室に常駐できない事実がある。本当にありがたいと思っている。教室には、色々な人が居た方が良い。子ども達に合う人も合わない人も居るが、それも子ども達が自分で決めれば良い。

・不登校の子ども達には、色々なパターンの子が居る。常に変化に対応する事が大切である。色々な立場の人が必要だと改めて感じた。

今後の「くすの木ルーム」について

- ・オンライン授業を発展させていきたいと思っている。環境を整えていく。
- ・勉強について行けるかどうか、通常学級との壁になっている。スムーズに教室に行ける事が増えるといい。
- ・子ども達自身が自信を付け、自己肯定感を高める事が大切。子ども達はお互いを認め合おうとし、集団意識が芽生えている。集団指導が難しい。学校の指導としてのやり方、その子にあったやり方をちょっとずつ見つける。
- ・あそびから入りに学びに繋げるやり方、環境を変えながら色々試してみる。学校なので、学校教育に少しでも向かう事が出来たら良いと思う。
- ・今後、事業を地域に波及するには民間(地域)の方の力を借りずには出来ない事である。早急に対策が必要。この様な事業実績を作れた事は良かったと思う。

「くすの木ルーム」に特化した先生とは？先生としてのスキル

- ・それぞれの立場で目の前の子ども達と向き合い「どうしていきたいか」を考える事が大切。どの先生でも出来る事だと考えている。通常学級も「くすの木ルーム」も同じ事である。
- ・子ども達に必要な手立てをうち、そして「待つ事」が必要である事。大人になった時に「あの時はこうだったなあ」と子ども達に思ってもらえたら良いと思う。

(2) 静岡市内居場所事業に関する情報収集会の開催

開催回数:6回

参加人数:5~15人 平均各回10人

参加者の職業:不登校を経験した当事者/不登校の子を持つ保護者/居場所の運営代表、スタッフ/NPO団体代表、スタッフ/塾講師/家庭教師/小学校教諭/放課後ディサービススタッフ/学校相談員/本事業に関心のある有志の方/大学生/社会福祉協議会職員/静岡市担当部署職員



a、事業の成果

- ・現場の生の声を聞く場所として、悩みや困難な状況を語り合える場所として機能していた。
- ・「学校見守りボランティア」に関する活発な意見交換が出来た。
- ・社会福祉協議会の方や、静岡市職員の方が参加して頂ける事で、協働事業だからこそ出来る率直な話し合いの場となった。
- ・第16回から「ゲストスピーカー」として不登校を経験した方の話を聞く事によって、グループワークを通じ、新しい価値感を考える場を提供する事が出来た。
- ・新しい「学校見守りボランティア」の適性人材や選定方法を考える為にアンケートを実施した。

「学校見守りボランティア」適性人材アンケート集計結果

現在千代田小学校での別室登校している子ども達の見守りボランティアをしています。

新しいボランティアを募集する際、その資質や適性を選定基準として文章化し静岡市に提出したいと考えています。ご意見は次回の情報収集会で書面としてお配りいたします。皆さまのご意見をお寄せください。

【質問】

- a、子どもの居場所スタッフや別室登校ボランティアには、どのような資質や能力が必要だと思いますか？
- b、なぜ上記の様に思いましたか？

【回答】

a子どもと打ち解けられる能力

b子どもに不信感を抱かせないことが重要だと感じたため

a自分の話をちゃんと真正面から聞いてくれる人

b自分の両親と折り合いが合わず、親戚の叔母さんに親とうまくいかない事をよく話していました。

a教員免許や保育士免許を保持している。(教職経験があると尚良い。)発達しょうがいなどの知識がある。子育て経験がある。心理系の知識や資格を保持している。先生とうまく連携ができる。

b自分のこどもを預けることを想定し、安心できる方が良いと思ったので。居場所とはいえ、学校という公的な教育施設の中につくるのであれば、資格なども保持していたほうが良いとおもいますし、教職経験があり、学校現場のことも理解している人は、先生との連携も図りやすく、良いと思います。

a自分の価値観を押しつけない

b繊細な児童は安心できる場所が必要だから

a話をよく聴いてくれる人・こだわりがなくどんなことでもまず受け止めてくれる人・否定しない人・優しく寄り添える人 待つことが出来る人

b気持ちを引き出すには、寄り添い受け入れ話を聴いてあげ、距離を縮めることが大切だと思うからです。関係を深くするには時間がかかるので気長に待てることが大切だと思います。

a子ども本位で物事を考えられること。子どもの視点に立ち、子どもの意見に真摯に耳を傾け、一人の人として尊重できること。

b子どもたちに居場所が必要な理由は様々だと思いますが、皆何らかのつらさを抱えていて、自分の力ではどうにも出来きずに困惑したり、自分を肯定的に捉えることができずに苦しんでいたりすると思います。まずはそんな子どもたちに寄り添い、信頼関係をつくることが出来る方、肯定的な関わりができる方が居場所にはいてほしい。安心できる場所なら、様々なことに取り組む意欲や勇気も持ちやすいのではないかと思うからです。

aまず、当事者の子供達に聞くのが必須だと思います。子供は意外に鋭いです。個人的には、多様な学び方を認める大人、子供の姿に学ぶ大人、子供の表れには必ず意味があると考える大人、子供を決めつけない大人、子供の心で楽しめる大人、子供の主体性を重んじる大人が良いと思います。

b子供は大人を見抜きます。後は、そういう大人が成長に必要なと思うからです。本当の楽しみを一緒に感じられると思うからです。うまく言えなくて申し訳ありません。

a子供に対して非難しない、選択肢をたくさん用意してもらえる人

b勉強だけが学校における別室登校の機能では無いと思います。家庭外で社会の大人と関わる機会として、今やある活動だと思います。来ても来なくても、批判されない安心するスペースとしての意味合いがあると思います。

a法律と守ることができて、基本的人権を尊重できて、大人同士の関係性をつくれる人です

b法律を守るのは最低限ですが、子ども相手になったとたん守れない方もいますのであえて書きました。また、自分が正しいと思うことを始めると、意見が異なる人の基本的人権を尊重しなくなる方もいますし出会ってきましたので書きました。

a大人同士の関係性をつくれる人ということについてですが、長くなります。ごめんなさい。子どもが成長するということは、今とは違う人と関わられるようになったり、今とは違う場所や活動に参加できるようになっていくことだと思っています。自分も含めてですが、「自分が子どもの居場所になろう」とするあまり、子どもに関わっている他の大人を敵だと思い子どもを抱えこんでしまって、「〇〇さんとは一緒にいられる」、「〇〇になら参加できる」で子どもの変化が終わってしまうことがあります。これは、子どもの成長の途中には必要な関係性ですが、あくまで途中なので、自分以外の大人と関わられるようにしていくことが必要ですし、そのためには子どもに関わる大人も周りとの関係を築くことが必要だと思います。理想の支援や理想の関わりを考えて支援に入ることは大切ですが、「それは自分の中のものであって他の人には他の人の理想がある」、ということをつかたうえでやっているとすることが必要だと思います。もっと単純に、関わる大人の仲の悪さは子どもに影響するので、相手を尊重できないまま口論

になるのも避けたいです。意見交換や話し合いは必要なので自分の意見を言わないということではありません。あくまで、相手を尊重して話し合おうということです。(ここまで書いてみて、自分にこれができているのかと恥ずかしくなりました。)

a子どもと同じ目線でも(大人としての行動も大事ですが)物事をとらえられる人。言葉を発する前によく考えてから発する事ができる人。漠然としていますが、害にならない人。

b子どもを主人公にして考える事が大事なのかな。と思います。時には大人としてリードして話す事も大事ですが、喋りすぎることが良くない事もあると思います。

a子どもの話をしっかり聞ける人 子どものペースで関わられる人「こうあるべき」を押し付けない人 学校のことも知っていてほしいが、先生色を出しすぎない人 学校復帰を強く願う保護者に対して、子どもの状態を客観的に見て、保護者のカウンセリングもできる人

b子どもの苦しい胸の内を理解して受け止めることが、必要だと思うから

a①人の多様性を尊重できる人 ②子どもの成長のために関わろうとする気持ちのある人

b大人(社会)が子どもに伝えることは沢山あると思いますし、伝える内容は(あるのかもしれないけれど)簡単には決まらないと思います。伝えること=子どもが知るべき学べきことが決まる→ひいては、教育指導要領や古い画一的な教育と同じ なので、子どもも様々な「多様性」を学べるような他者との関わりが必要だと思います。それには「子ども自身の多様性を認めて、子どもの成長のために関わってくれる人」が必要だと思います。資格、経歴、年齢、性別は何でもよく、むしろ多様な大人が複数で関わる方が良いと思います。

a自分の子供の通う適応指導教室には、親の私に「今日も来れましたね(〇)」「先日の行事も参加して今日も来れましたね(〇)いっぱい褒めときますね」「お母さん、ありがとうございます」とポジティブな言葉をかけてくれる先生がいます。いつも行っただけで息子を褒めてくれます。そこに行っただけで偉い、と、頑張りを認めてくれるって、学校ではなかなかしてもらえないことだと思います。いい成績だから褒めるとかではなく、「来れたことがすごい」「行けない時に自分の言葉でお母さんに言えたことがすごい。」「子供に合わせて送迎してるお母さんお疲れ様」。そういう態度で接することができる人材が必要だと思います。親の私もだんだんと「行けたことがすごい。」「生きてるだけでえらい」と今子供ができてることに注目するようになりました。

b学校は、教育を受ける場だから、「ただ行っただけで褒めていたら、身に付けないとならないことが身に付きません。」「っていうスタンスだと思います。多くの子供にはそれが合ってるのかもしれませんが、合わない子供には別のやり方が必要です。今できてることを認める姿勢が大事だと思います。

(3) 静岡市内居場所事業に関するホームページの作成

令和2年度静岡市協働パイロット事業『小・中学生のための居場所』実態調査業務及び本事業の成果として得られた、市内で運営されている小中学生を対象とした居場所事業に関する情報を掲載したホームページを作成しました。不定期になりますが、アップデートも行う予定です。

みんなのひろばURL:<https://platform-shizuoka.jimdoofree.com/>

ようこそ！「みんなのひろば」へ



わたしたちの活動について

はじめまして！あそびのひろばの鈴木です。

あそびのひろばは「みんなで作る」居場所として、子どもの居場所作り、イベント企画、子どもの為の居場所情報収集会、小学校内の別室登校見守りボランティア等、いろいろな事にチャレンジしています！ぜひ、ご覧ください！

たいせつにしていることはコチラ

小学校のコーディネーターの先生
昼寝しても、ゲームしても、何も
ゆっくりと過ごす事ができます。

葵区-AOIKU
駿河区-SURUGAKU
清水区-SHIMIZUKU

毎週金曜日
14時30分から18時

静岡市葵区古庄 3-18-12-104
☎070-8499-1516 (代表 鈴木)
参加費：無料



駄菓子屋

NPO法人

<https://platform-shizuoka.jimdofree.com/子どもの為の居場所情報/>

子どもの為の居場所情報



毎月1回開催の「子どもの為の居場所情報収集会」を通じて出会った、静岡市内の子どもの為の居場所情報をまとめました。

あそびのひろば



よく「あそひろ」と呼ばれます。誰でも居られる目的をもたない自由な場所です。

あそんでもいい、勉強してもいい、

あそひろゲーム部



1位を取るというより、皆で楽しみ次も会いたいなどお互いに思うようなコミュニケーションを子ども達同士が自然と取れています。

